

信仰の翼を広げて

ブロックアドバイザー 川嶋直行



「しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることが出来る。走っても力衰えず、歩いても疲れない。」（イザヤ書四〇・31）

新改訳聖書第三版では、「鷲のように、翼をかって上ることが出来る。」となっていました。新改訳2017では「鷲のように、翼を広げて」に変わりました。鷲は羽を大きく広げ、風を切るように飛んで行きます。キリスト者の歩みも、信仰の翼を大きく広げ、聖霊の風を受け天高く上って行くようなものではないでしょうか。

私たちを取り巻く状況は、厳しさを増しています。しかし、逆風は、むしろ神様が下さった霊的成長のチャンスなのかもしれません。信仰の翼を大きく広げ、風を捉えて鷲のように霊的高みへと上って行けたらと願います。あの大きなジャンボジェットでさえ、翼が風を捉えるとき、はるか上空を飛んで行きます。

「こういうわけで、あなたがたはキリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。……あなたがたのいのちは、キリストとともに神のうちに隠されているのです」（コロサイ三・1～3）。キリスト者は、地上を歩んでいます。魂は既に神の右の座についておられるキリストとともにあるのです。

鷲の目は、人間よりも、はるか遠くまで見ることが出来るそうです。私たちも、目の前の問題課題の大山の先にある、「永遠の栄光」（エペソ一・18）を見ることのできたらと願います。なかなか約束が成就せず、

心細さを覚えていたアブラハムを、神は外に連れ出し「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。あなたの子孫は、このようになる。」と仰せられました。アブラハムはその約束を信じ、神はその信仰を彼の義と認めて下さいました。

私たちも、神の約束を思い出しましょう。私たちの信じている神は、約束を破ることができないお方です。イマヌエルの群れを、目的をもって興された神の約束は、今も昔も変わりありません。もう一度、目を高く上げて、神には約束したことを成就する力がある（ローマ四・21）ことを確認させて頂きたいと思えます。「待ち望む」は、カーバーというヘブル語が使われています。「集める」「よりあわせる」という意味が含まれます。私たちの心は散らばりやすいものです。しかし、今一度、主に心を集中させ、主にのみ、拠り頼む（1サムエル七・3）と同時に、群全体が、信仰を燃り合わせて行く（伝道者の書四・12）必要があると思えます。

モーセの祈りの手が下がりそうになったとき、祈りの友であるアロンとフルが、祈りを合わせました。私たちは、困難な時代に置かれています。だからこそ、共に主を待ち望み、心を合わせて行く必要があると思えます。第21次総会と第73次年会のため、主の祝福を祈り求めましょう。主を待ち望み、全群が新しく得、信仰の翼を広げて、霊的高みへとこのぼって行くことが出来るようお祈り致します。

目次

信仰の翼を広げて……川嶋直行……	1
6年間の回顧と感謝、近畿教区CS 講習会……	2
教団運営委員会、教会福音讃美歌、遠州聖会……	3
海外トピックス、国内局コラム、読書のひろば……	4
江藤博久先生追憶、SIBS での奉仕……	5
広げた翼……	6～8
聖宣神学院報……	9～11
公報、消息……	12

第19次、20次総会期を振り返り

6年間の回顧と感謝

言葉に尽くせない喜び
苦難を共に担って

教団代表 藤本 満

愛をもってきよく生きることを教えてくださいました。前代表・竿代昭夫先生が強調された青年を育てる働きは、それを担ってくださる先生方・信徒の方々が用意してください、イムヌエルの中でしつかりと定着してきたと思っています。大上段から振りかざされるホーリネスではなく、小さい者たちに仕えるという愛と犠牲にあふれた器を育ててくださいました。

◆イムヌエルは、日本の教会の交わりの中で成長しました。前代表の最後の年に開催された札幌伝道会議、前代表が実行委員長を務めた神戸の伝道会議、私たちは一貫して教団を越えた、協力関係の構築に努めてきました。

◆その一環として、ホーリネスの交わりである福音連盟に加入し、また『教会福音讃美歌』編纂、『聖書新改訳2017』の発行に力を注ぎました。教会の宝となる讃美歌と聖書翻訳に貢献できたことは、私たちが何かを主導したのではなく、他教団・教会の理解を深め、共に労した証しです。

◆そして、この道筋は、これから先の6年、日本の諸教会が共通して迎える困難な時代への「備え」となっています。

◆この6年間で引退された先生方は45名、現役で召天された先生方は5名です。こうした事象に加えて、教会の高齢化、都会と地方の格差など、すべての教派教団が同じ問題に直面しています。神学校

を閉じて、他の神学校に献身者やゆだねることも特別なことではなくなりしました。私たちは、多岐にわたる働きに協力し、その交わりの中に「教団」として飛び込んでいき、生かされてきたということは、これから先の日本のキリスト教会が再編される時代にあって、決して孤独ではない、助け、助けられる立ち位置にあることを忘れてはならないと思います。

*

みなさまに支えられて、多くの教会を訪問することができたことは幸いでした。

どの教会にも、教会のサイズや歴史や課題にかかわらず、そこに主イエスを真実に愛し、仕えている信徒の方々、そして先生方とお交わりが許されました。特にお交わりが招かれてもわからない、地域教会の「苦悩、信仰から出た働き、愛から生まれた労苦、望みに支えられた忍耐」(1テサロニケ1・3)を見ることができました。

「あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、今見てはいないけれども信じており、ことばに尽くせない栄えに満ちた喜びに踊っているのです。あなたがた、信仰の結果であるたましいの救いを得ているからです」(1ペテロ1・8-9)。

これはペテロがいくつもの教会を回って驚き、感動した記述です。その気持ちが、少しわかるようになります。

近畿教区 CS 講習会

子どもの成長を喜ぶ教会に
みんな大切な礼拝者

王寺教会 田辺寿雄

2月12日(月・祝)、大阪伝法教会を会場に、近畿教区のCS講習会が開催されました。

講師として、加古川教会の柏木あゆみ先生が午前の講演を担当してくださいました。「みんな大切な礼拝者」というテーマで、先生が副牧師としてご奉仕された深川教会におけるCSの取り組みについて、多くの実例を含めて語ってくださいました。

子どもが来やすい時間にするために、CSを午前10時からのスタートにしたこと、前半は大人と一緒にの礼拝で、後半は大人と同時に並行で子どもだけの礼拝を持つようになったこと、分級や食事の工夫や苦勞など、興味深いお話ばかりでした。子どももひとりの礼拝者として成長できるように、プログラムや言葉遣いなども子どもに合わせて変えたこと、CS教師のみならず、教会を挙げて子どもに愛情と関心を注ぎ、子どもの成長を喜ぶ教会となっていたことなど



お聞きすることができました。用意してくださった資料の中には、横山文字先生が子ども向けに書かれたメッセージや、教師会のメモ、伝道に関する考えをまとめた文章などもあり、横山先生の「子どもも礼拝者となるように」というビジョンが教会全体に理解・共有され、実現していったことが伝わって来るようでした。午後は、子どもの賛美歌集から数曲練習した後、約1時間グループに分かれの分ち合いと質疑応答の時を持ち、それぞれのCSのために祈り合い、閉会礼拝をもって締め括りました。

お聞きしたことをそのまま真似するということではなく、それぞれの教会の実情と必要に合わせて、何が出来るだろうか、何を変えていくべきだろうか、多くのチャレンジを受ける刺激的な時でした。弛まぬ努力と工夫の大切さを改めて教えられた講習会でした。

教団運営委員会から……

第19・20次総会期の総括と 第21次総会の展望

広報 川嶋直行



2月5日(月)～6日(火)本部会議室で定例の教団運営委員会が開かれました。冒頭、藤本満代表によりイザヤ書四一章3～4節が開かれ「初めであり、終わりとともにある方の導きを求めよう」とお勧めがありました。総会・年会を前に、総会・年会資料に目を通しながら、これまでの歩みと今後の方向性について、確認と討議がなされました。

総会・年会資料にも記されていることですが、目にする機会のない方もおられますので、重要と思われる点をご紹介します。全般報告の最後に「イムマヌエルらしさを忘れずに、偏らず、福音に生きる」とあります。聖と宣の伝統に堅く根ざし、時代に柔軟に即して行くということでしょう。第19次・第20次総会期において「合議的監督制」の成熟・発展を目指し、牧師と信徒の協働体制が整えられて来ました。具体的には、厚生委員会、財務委員会での信徒の役割の増大、信徒局の創設、信徒主体

のBTC後援会のスタート等があります。今後、牧師がいくつかの教会を巡回しながら、信徒主体の教会運営がなされて行くケースが増えることが予想され、国内と世界、教団間、地域教会等、様々なレベルにおいて、公同教会を意識しての「協力体制」構築がますます必要となってくるのが展望されます。

イムマヌエルの牧師・教職を目指す方々のために「奨学金代弁済制度」が提案され、議決されました。これは、聖宣神学院入学者が、学生支援機構等から借りた奨学金を教団が代弁済し、一定期間イムマヌエルの教職として奉仕した場合、返済が免除されるという制度です。奨学金返済が、聖宣神学院の入学の妨げとなることを軽減する目的があります。

聖宣神学院構内にある旧女子寮をリフォームし、研修施設とする提案については、予算三千万、三千五百万(内、後援会が二千万円支援)で基本的な方向性は承認されました。来年の年会をBTCで開催するという案も出されていますが、防湿対策工事の正確な見積と予算確保、定期的な管理・メンテナンスの人材確保の見通しをしっかりと付けるべきとの意見も出され、次の教団運営委員会で継続検討することになりました。OC本部機能の事も含め、今後の方向性を決める大きな課題ですので、お祈りをお願い致します。

教会福音讃美歌から

新しい歌集を発行しました 活用ください

あたらしい歌 2

福音讃美歌協会

理事長 小川宣嗣



昨年11月に、福音讃美歌の働きの一つの結実として、20曲入りの小讃美歌集「あたらしい歌2」(いのちのことば社)が発行されました。2009年、第5回日本伝道会議(札幌)に合わせて、本格的な讃美歌集編纂の準備過程で「新しい歌」が発行され、この小讃美歌集を通して作詞、作曲、編集について多くの学びと蓄積がなされやがて2012年「教会福音讃美歌」発行へと生かされて行ったこととです。

「あたらしい歌2」には、新讃美歌や未紹介曲を紹介することと共に、やがて訪れる将来の大改訂への準備という側面があり、その働きを担う若い人材の発掘育成、創作編集のノウハウ継承などが意識されています。ぜひ手にとりて歌ってみて頂ければ幸いです。

第22回 遠州聖会……

「再臨と聖潔」をテーマに ローマ書から迫る信仰



島田教会 浜田耕三

厳しい寒波が全国を覆う中、会場となりました浜松は穏やかに晴れ渡り、主のみ守りと祝福のうちに第22回遠州聖会が2月11日、浜松教会を会場に開催されました。今回は「再臨と聖潔」をテーマに掲げ、深谷春男師を講師としてお迎えしました。遠州地区を中心に147名の方々が出席しました。

前半にはテーマに基づく賛美がささげられ、贖いの恵みを褒め称えると共に、やがて主の聖前に立つ者として、なおも聖くある事を求めつつ、聖言を待ち望みました。また恒例となりました「グレイス・キップ・クワイヤー」による特別賛美がささげられ、天使のような清らかな、また力強い子どもたちの歌声が会堂一杯に響きました。

深谷師より「人生3万ページの本の如し」の副題のもとにローマ書より聖言が取り次かれ、3万ページ(日)の人生には三つの葉が挟み込まれていなければならぬと語られました。▽第一の葉Ⅱ

「十字架の贖い」の葉。(三・21、26) 深谷師はご自分の体験を踏まえて、十字架の血潮における罪の贖いについて力強く語られ、その信仰が明確となっているかと問われました。▽第二の葉Ⅱ「聖霊の内住による聖潔」の葉。(八・2) 聖霊に明け渡す時、「自我」の生涯が変えられ、聖前に整えられること、そのためには明確な献身の告白が必要であると語られました。▽第三の葉Ⅱ「再臨と礼拝(献身)」の葉。(二・1～2) 再臨の主の聖前に立つべく、神様を第一とし、自らを「生きた供え物」として献げる歩みが求められること、その歩みによって栄冠の恵みへと導かれると語られました。



しかし私において 神の恵みがあることが幸です

国内教会局から

教会建設の務めに
新たな総会期に踏み入って

しばらく初代教会を旅しました。再び現在に戻りましょう。国内教会局は全国の尊いお祈りを頂き、教会建設の務めと取り組みます。私たちは働き人の必要を収穫の主に祈りつつ各地域教会に赴きました。昔も今も



収穫は多いのです。主イエスも目を上げて畑を見るように招いておられます。マタイの福音書を共有した信仰共同体のことに思いが向きます。「働き手が少ない」とは主イエスが周囲を見渡してお感じになった必要ですが、この福音書を共有した初代教会が辺りを見回して実感した欠乏でもあり、私たちがまたその不足を味

わっているのです。私たちは置かれた状況の中で創意工夫を重ね、協体制を組み、あらゆる可能性を試みつつパウロの如く「自分の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たして」いく志ですが、何よりも収穫の主に働き手を送ってくださる様に祈ることから始めます。主の招きに応じて。(葛田崇志)

■米ムーディー聖書学院で学長ら3人辞任・引退
米福音派の神学校として有名なシカゴのムーディー聖書学院(MBI)評議員会が1月10日、「新たな指導部の時代」として、ポール・ナイキスト学長とステイブ・モック最高執行責任者(COO)の辞任を発表。ジュニアス・ベヌゴールパル学部長(プロボスト)も引退すると教界紙「アラバマ・バプテスト」などが報じた。同学院関係者の「私的金融取引」が行われているとの疑念が強まっていた。評議員会は、一連の騒動の責任を取っての辞任かどうかについては言及を避けた。MBIは1886年、ドワイト・ライマン・ムーディーにより設立。日本からはホーリネスの指導者、中田重治ら多数が学んでいる。最近では財務面での困難から、ワシントン州スポケーンのキャンパス閉鎖、シカゴでの教授削減などを迫られている。

■スペインでプロテスタントが急成長し教会総数4045に
カトリック国とされるスペインで、プロテスタント(福音派)教会が急成長している。法務省の宗



海外トピックス

やアドベンチスト諸教会もプロテスタントとして分類されている。福音派ニュースサイト「エバンジェリカル・フォーカス」によると、スペイン国内のプロテスタント教会は、1993年1435だったのが、97年は1632、2012年は3540と急増。2017年は4045。国内の「礼拝所」の内訳を見ると、カトリック教会77%に次いでプロテスタント教会は12%を占めている。第3位イスラム教は4%。
■ソロモン神殿の手がかりが消失
3千年前に建造されたシリアのアインダラ神殿の大半が1月26日、トルコによる空爆で破壊されたと、『シリア人権監視団』とシリア文化省が発表。米誌『ナショナル・ジオグラフィック』(日本語版)は、旧約聖書に記されたソロモンの神殿の姿を説明する手がかりとなる建造物を残していた神殿と指摘している。(平瀬聡樹)

読書の

ひろば



新年度を迎えて

お勧めしたい本

お祝いに、記念に

インマヌエル出版事業部

卒業、入学のシーズンとなりました。新しい進発をされるお一人ひとりに祝福をお祈りいたします。その折にプレゼントや新たな良い学びとなる書籍を紹介いたします。まずは聖書と讃美歌です。昨年末より「聖書 新改訳2017」が発行され、今春より教団の公式聖書となります。少し高額ではありますが、この機会ですので喜ばれます。また讃美歌も良い記念となります。子どもたちには「教会学校さんびか」があります。教団内外からも好評ですし、価格もお求めやすくなっています。

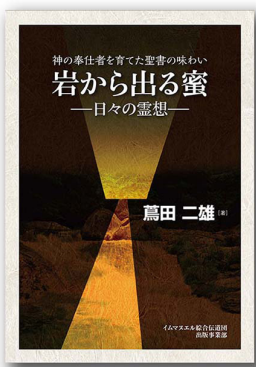
新しい出発の時、デイボーションの本も有益です。昨年末には「岩

から出る蜜」が装いも新たに発行されました。初代総理のスピリットが伝わる一書です。シーモンズの「主を仰ぐ朝」「新しい朝に」、また「エマオの道で」なども発行以来、多くの方々にご利用していただいています。

成長、学びのための書籍も良いと思います。先日「信仰教理問答」が発行されました。聖書の教えを質問と答えとの形にしたものです。聖書を土台とした信仰の確立のためにも役立つでしょう。価格もお手頃でグループの学びにも活用できます。また「聖潔の生涯」「新約のきよめ」「聖化の説教」(JHA)などきよめに関する書籍もこの機会にお勧めです。

青年たちでしたら電子書籍も喜ばれると思います。「岩から出る蜜」「エマオの道で」を含め「聖潔の生涯」「祈る人々」など良書が電子化されて発行されています。アマゾンから購入できますのでポイントなどをプレゼントするのも良いのではないのでしょうか。

「読む人は育つ人」。子どもたち、青年たちが良書に触れ、新たに成長できるように願っています。



追憶

故江藤博久先生

2018年1月14日ご召天(享年78歳)



江藤博久先生は、1939年12月9日、三重県津市で誕生。長じて学びのために上京され、大学卒業後、日本を代表する会社に就職。その後は国内外で営業畑一筋に40年余りを歩きました。海外赴任中、奥様がシンガポールJCFへ導かれて受救されると、やがて博久先生も聖書のみことば(ローマ五・5)に心打たれて信仰の決心へと導かれ、49歳の時に受洗されました。信仰に入ると共に、過去の悪習慣から解放されて良き証しを立てられ、多くの方々が主に導かれました。

1991年、転勤で国内に戻り、聖宣神学院教会に所属。教会の伝道活動や建て上げのために尽力されました。率先して会堂掃除に参加され、特に男子トイレは長らく先生の担当奉仕場でした。60歳で定年を迎えられた後、ふとした検査で深刻な心臓病が分かり、11時間にも及ぶ大手術に臨み、主のあわれみによって回復されました。そうして生かされた生涯を福音のために用いる召命を感じ、始めはお茶の水聖書学院で、さらに2004年には聖宣神学院入学。60代で若い人々に混じって寮生活を送り、懸命に学びを修める姿は、同窓の仲間たち、教会にも大きなインパクトとなり、やがて先生の心と姿に刺激を受けて、第2の人生を主に献げる方々が興ざれて行く恵みの突破口となりました。2007年卒業と同時に東京・八王子教会牧師として奉仕され、2012年からは協力牧師兼巡回牧師として2017年の引退まで多くの教会を巡回して貴いご用を果たされました。引退直前に進行性肺ガンが発見され、幾つかの治療方法を試みられましたが、最後はご自宅で最愛の奥様とご家族に看取られつつ、78年1か月の地上生涯、信仰生涯28年余を完走して、御国に凱旋されました。(小川宣嗣)

カナ・フェロシップ……

結婚について考えるセミナー開催



中目黒教会 馬場満子

一昨年から活動を開始し、今年第4回目のカナ・フェロシップを開催する事となりました。その間、全国から真剣に主に喜ばれる結婚を祈り求めている兄弟の御参加を頂き、結婚にまで導かれるカップルも誕生したことに、神様の深い恵みを覚えて聖名を崇めます。今年「主に喜ばれる結婚をめざして」の学びをさらに多くの方々に知って頂くために、水谷潔先生を講師にお迎えして、ごなでも参加できる「結婚について考えるセミナー」を企画しました。この学びはカナ・フェロシップに参加される方々だけでは勿体ない、凡ての人に聴いて頂きたいという願いを持ってのご案内です。世の中の価値観とは全く違う、聖書の示す結婚とはどのようなものなのか、この時代に色々な立場から、改めて学ぶ事が、幸いな結婚を望む本人に、またその家族や教会にも、今必要なのではないかと思っています。真剣に祈り求めている方はもちろんの事、結婚について学びたい方のご参加をお待ちしています。詳細は各教会にお送りしたチラシをご覧ください。

宣教活動の一環として

南インド聖書神学校 集中講義と理事会での奉仕を終えて

福岡教会 國重潔志

国外宣教の一環として、長く親しい関係を持ってきた南インド聖書学校神学校に、昨年の11月から12月まで、クラスを担当するご奉仕をしてまいりました。皆さまのお祈りに支えられましたこと、心より御礼申し上げます。インドに赴きましたのは今回で3回目となります。最初は集中講義のため、その次は理事会出席のため、今回は理事会と集中講義の両方のため約1か月ほど滞在してまいりました。滞在中に、ちょうど神学校創設80周年記念式典が開催された他、聖化大会や宣教大会も開かれ、講演なども行いました。集中講義のクラスはウエスレアン神学概論で、他にも近隣の教会で聖日礼拝の説教の御用にもあたりました。学校内のゲストハウスに滞在し、男子寮の食堂で食事を頂きましたが今回も健康を損なうことなく、毎食、楽しくカレーを食べてきました。普通の日本人の舌ならば十

分に美味と楽しめる本場カレーを堪能してまいりました。

南インド聖書神学校は、この1月に新しい学長に交代しましたが、単なる福音的神学校の一つではなく、きよめ神学に立つ神学校としてのアイデンティティをより強調していく方針が理事会で確認されました。そのアイデンティティのゆえに、全インドはもとより、周辺国からも留学生が来ています。そのアイデンティティの強調のため、今後も私たちの教団から理事会や特別講義を通しての人的支援を期待しているとの要請を、神学校の学長や、理事会に来ておられたワールド・ゴスペル・ミッションの総理からも頂きました。

今回の理事会から南インド聖書神学校の理事の一人となりましたこの者のために、また南インド聖書神学校のために、引き続きお祈りくださいますようお願い申し上げます。



巻頭言

創造主の招き



世界宣教局
梅田 昇

今月は教団総会・年会が行われます。新たな任命を頂いて新年度の歩みに入っていきます。教団においても、キリスト教会において、国内外の情勢を見ても、大変困難な時代の中に置かれている私



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

たちですが、天地を造られた主を見上げてなお前進させて頂きたいものです。このような大切な節目の時に詩篇の九六篇に注目させて頂きたいと願っています。実は詩篇九六篇は「宣教の詩篇」と呼ばれています。この中で、創造主ご自身が人々を招いている様子がかかれています。その招きは祝福の招きです。困難な時代においても変わらぬ主の招きに応じて、祝福のうちに進ませて頂きたい、そう願われます。

*

1、創造主は、信仰者を賛美へと招いておられます。救われた喜びは尽きることがありません。新しい歌を歌うように招かれています。試練の夜にも、逆境の日にも歌うことができる賛美をささげるよう

に主は招いておられます。私たちは公の礼拝において、個人の生活において、賛美を主にささげることが出来ます。

2、創造主は、信仰者を宣教へと招いておられます。救いの喜びは、単に喜び、賛美するだけに終わりません。救いの喜びは、他の人々に分かち合いたいと言う宣教の重荷、魂への熱い思いへと変えられていくのです。「主の栄光を国々の中で、語りつげよ」と詩篇の記者は招きました。2節には「良い知らせを告げよ」と招きがありますが、喜びの知らせを必要としている方々が私たちの周りに沢山あると教えます。世の終わりの近さを思わせるような兆候が社会の中に見られます。凶悪な犯罪、家庭の弱体化や家庭内事件、虐待など、福音が必要とされながら、その必要が自覚されない時代です。福音を経験した者が、福音を伝えていくことができるのです。

3、創造主は、信仰者を礼拝へと招いておられます。宣教の重荷は主を礼拝することから与えられます。「聖なる飾り物をもって主にひれ伏せ。全地よ。主の御前に招かれています。異邦人宣教が始まったアンテオケ教会では、彼らが主を礼拝しているときに、聖霊がバルナバとサウロを聖別するようにに語られたのです。祝福をもって招いておられる創造主に応答し続ける信仰者とならうではありませんか。

第二学期が再開されました。常喜は今学期「聖書解釈」のクラスを担当することとなりました。受講する学生は全部で13人で、その内の3人は視覚障害者です。学期を通じて聖書を自分で読み、観察、解釈、適用できるようにする訓練をしていきます。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2018年2月6日

一時間毎に出ているバスは翌早朝まで満員で朝四時頃のチケットを取り、その夜は教区のオフィスで夜を明かすこととなりました。

チケットを買いに行く途中、車中でジャーソン先生がフィリピン・ウェスレアン教会で長年宣教師として働かれたことがあるピカート先生が入院しているの訪問しないか尋ねられたので、訪問する意向を伝え、病院に行くことになりました。実のところ、ピカート先生の入院のことについてはフェイスブックで伺っていましたので、バギオに向かうバスの中で訪問したいと思ってはいたので、もう既に暗くなっており、バスの時間帯も分かりませんでしたので諦めていたところでした。

ピカート先生は短期宣教のためにバギオに滞在し、現在、信徒のための訓練プログラムを立ち上げようとしているところでした。ところが、1月中旬に歯が欠けたところから感染し、下顎が腫れ上がり、入院することとなりました。抗生物質を投与するもなかなか完治せず、常喜が訪問した前日には肺炎を患っていることが分かりました。久しぶりにピカート先生ご夫妻と再会が許され、しばし良き交わりの時が与えられました。最後はお互いのために祈り合うことができました。その一週間後には、退院することができ感謝でした。ご高齢でありながら宣教の働きを進められているピカート先生ご夫妻のために祈りください。■



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2018年2月7日

1月は、大晦日に到着した医師一人、看護師一人のチームとともに、心臓外科週から始まりました。麻酔科のスタッフが人工心肺装置の操作も担当するため、他の部屋を閉じながらではありませんでしたが、同時期にいられた麻酔科のボランティアの先生が一室を担当してくださるなど、助けも与えられました。並行して心臓エコー室もボランティアの先生をお迎えして働きの一時拡大。通訳等のために臨時スタッフが毎日4人必要と言われた時の最初の心の中の反応は「無理」でした。実際ぎりぎり直前まで予定表は真っ白でしたが、師長の室の助けもあり、連絡の取りにくい時なのに不思議なように人手が与えられ感謝でした。今まで週末は当直と夜勤スタッフでカバーしていましたが、当直スタッフは、合間に体を休めつつ、緊急手術に対応する、というのが本来のスタイルなのですが、このところ休む間もなく朝に夕に手術が入るので、

24時間、48時間の当直が連続勤務のような状態になり、加えて8時間勤務の病棟のバイトをした方が収入が良いという現状にスタッフのやる気も下がるといふ訴えがあり、週末の日中も週日より少ないスタッフで勤務をする、という新体制が始まった月でもありません。また忙しい時にはもっと手が欲しいという訴えがあり、一方で珍しく静かな時には勤務でなく当直のように過ごしてしまう傾向もあり、難しいところです。包帯の在庫がなくなつて、調べてみるとナイロビから仕入れている弾性包帯を無駄にしている、という報告に驚いた月でもありません。12月に届いていてまだ整理が済んでいなかった箱から包帯だけ抜き出したり、折りつつあれこれとしていましたが、2年越しで準備してくださった教会の包帯がちょうど届いたり、いつも以上に感謝して受け取りました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

30日には、野党が大統領就任式を執り行い、野党の党首が、「自分こそ大統領である」と宣言しました。その日は、国の厳戒態勢が敷かれました。警戒レベルも引き上げられました。2007、8年に起きた混乱を思う時、なお静観しつつ祈りつつ過ごしております。格別、野党支持者の多いナイロビのスラム街では、野党支持者による道路閉鎖、暴動や警察との衝突などが度々報告されています。引き続きお祈りください。■



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2018年2月5日

ら感染の爆発的な拡大が生じる可能性もあります。幸いなことにジェンボにはこの感染はまだ届いておりませんが、隣町には既に拡がっていて感染者の報告があります。引き続きお祈りください。クリニックにおいては変わらずに奉仕に勤しむ毎日です。クリニックのプロジェクトの一つに新しい産科病棟の建設がありました。この企画は保健省からのもので一昨年の半ばから始まったものです。建設過程で様々な問題がありましたが、ついに終わり、引き渡しが行われました。電気が繋がれていないためまだ実際には使えていませんが、いずれそちらに移れそうです(いつになるかはまだ未定)。約2年前に今まで産科であった建物が老朽化のために使用不可となり、今現在は本来検査室となっていたところを分娩室として利用しています(水道がある部屋であったため)。部屋の大きさは狭く、分娩台が1台しか置けず、お産が重なった時には産後部屋のベッドでお産をすることもあります。新しい産科はお産過程を分娩進行期からお産後まで通して観察できる独立した建物で、一日でも早く使用できることを楽しみにしています。月末にスタッフが一人学校のために抜けました。また長期休暇に入ったスタッフもいます。スタッフ不足が続いています。そのよう中でも、いまいるスタッフと協力して毎日を過ごしています。引き続きお祈りください。■



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2018年2月8日

巡回の奉仕をさせて頂くかたわら、おもいがけず仕事を与えられ、その仕事に携わる中で、多くのことを教えられております。特に、日本の現状を目の当たりにしながら、時代の変化と共にこの国にもたくさん課題が山積していることを痛感させて頂きました。またつい先だって、私ごとですが親戚にも病に打たれた者がおりました。見舞うことも多くなりました。病院を通して日本の現状に触れつつ、介護の大変さや様々のことを学ばせて頂いております。

主の御名を賛美します。2018年の奉仕が始まりました。ザンビアの1月は雨期で雨が多く降るはずですが、全国的に降水量が少なく乾期のような天候が続いています。ある程度育ったメイズ(主食のトウモロコシ)が成熟する前に枯れてしまっています。ザンビアの首都ルサカでコレラが大発生し、そこから各地に広がりの感染者、死者も次々に報告されています。ニュースでは新感染者が毎日のように報告され、緊張が続いています。旅行など出歩くことを極力避けるようにとの厳戒態勢が敷かれ、路上販売の禁止など、政府も神経を尖らせて警戒しています。学校も通常は、新年度が1月から始まるのですが、いまだに始業日が延期され、各学校にも大きな影響が出ております。旅行は極力避けるようにと指示が出ていますが、どれだけ人々がその指示に従うかは不明で、もしかすると人々の移動が多くなるこれから

2月1日に沖繩に向かいました。那覇教会、糸満教会、東風平教会でご奉仕をさせて頂きました。その中でも、プリンセル先生との再開は本当に懐かしく、感謝なひとときでした。糸満教会の大山先生が喜んでプリンセル先生の介護をしつつ教会に関わるすべてのことをこなしておられます。その仕える姿勢にあらためて感動し、背後で支えておられる主の御名を崇め

ました。プリンセル先生は、以前にもまして、立つことが困難となつています。また沖繩がこんなに寒いのもビックリしています。これから板橋教会、安食教会、白鳥教会と巡回のご奉仕が続きます。お祈りください。■



CHINA

香港

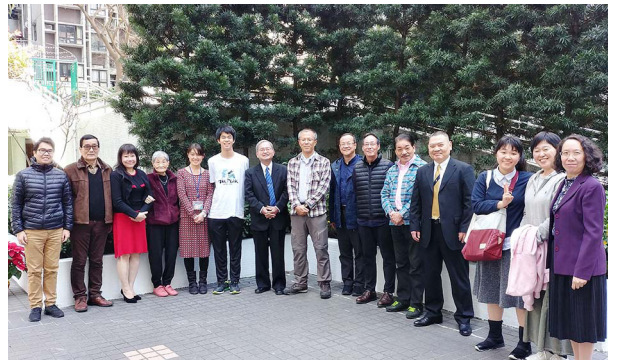
鹿島義喜・朱蕙芬*2018年2月8日

香港は、今年の春節(旧正月)を前にしています。2月16日が旧正月です。今年は「戊年」なので、香港では、その象徴としての冒険、興奮、遊び心をモットーに1年の始まりを祝おうとしています。牧師館の目の前のビクトリア公園では、旧正月の一週間前から旧正月初日の数時間(朝の6時まで)フラワーマーケット・花市が開かれ多くの人々で賑わいます。富を象徴するキンカンや、ロマンスと長寿を象徴する桃の花などが売られます。旧正月元旦の夜には、世界のベストイベントのひとつにも選ばれた「旧正月インターナショナル・ナイトパレード」が行われ、

世界各国の色とりどりの山車がパレードします。2日目の夜には、旧正月花火大会が今年も行われ冬の夜空に花火が打ち上げられます。そのような中、教会は、今年の御言葉を握り、海外に起こされたイムヌエルの一枝として、一歩一歩今年も使命を全うしようとしております。教会としての年間聖句は「私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもってあなたがたの必要をすべて満たしてください」(ペリピ四・19)で、今年も全てのことを主はご存知で、必ず私たちの必要を満たしてくださいと信じています。

12月31日の年末感謝礼拝をもって去年の歩みを締めくくり、新年礼拝、そして14日の礼拝には、WGMのホーリー宣教師が香港においでくださり、礼拝の中で、救いと日本への宣教師としての召しのお証をいただきました。28日には、第8回目となる教会総会を持つことが許されました。出入りの多い海外の群れではありませんが、主は一回一回の礼拝を今年も祝福していただくさつておられます。

1月中旬には、JOMAのメンバーの一つであるAFJジャパンの理事ご夫妻と北京への宣教師やアルファコースジャパンの副代表の方などが香港をご訪問くださり、良き交わりの時が与えられました。牧師たちの毎週の香港と広州との出入りは続いています。年會までのひと走り、引き続きお祈りに覚えていただけると幸いです。■



■会計報告1月分

宣教師金 二、八〇九、九二二円
月平均 二、八〇九、九二二円

お祈りの課題

ケニア(眞田就子)

- ◆今ところ全国的な混乱からは守られています。続けて治安の安定のためお祈りください
- ◆ケニア各地で飢饉が発生し、特に影響のひどい地域では医療支援なども困難しています。AGCという団体がその課題のために支援計画を立てつつありますが、その必要が満たされ、良き改善の方向へと向かいます。お祈りください
- ◆テヌウエック病院の働き人のため。(ルカ一〇章二節)
- ◆麻酔が不足しています。必要が満たされますように

フィリピン(豊田)

- ◆新校長アレックス先生のリーダーシップのために。学生たちがサタンからの誘惑、攻撃から守られ、学びと訓練に励むことができるように
- ◆地域教会でインターンシップ中の4年生のために。あらゆる誘惑から守られ、教会を建て上げる喜びを体験できるように
- ◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのために。義実のピザ取得のため
- ◆カンボジア(眞田緑乃)
- ◆新しく引越したところでのバンディ先生の伝道活動と生活に主の確かな臨在と結実、必要の供給をお祈りください
- ◆今、本部と教会、宣教師館の建設が同時進行中です。無事に迅速に完成に至りますように
- ◆2月に開催された伝道者セミナーの結果、伝道者の働きと生活に御霊の結実である変化と変貌が見られるように
- ◆ザンビア(根廻)
- ◆コレラが国全域で蔓延しています。これ以上感染が広がりますように。私自身もこの感染から守られますように
- ◆スタッフが不足の中、その日の働きに携わっています。主を仰いで、力を頂いて進むことができますように
- ◆ザンビア(富澤)
- ◆日本滞在中の巡回が祝されますように

- ◆体が宣教地に慣れてしまっているため、日本での冬の寒さに厳しさを覚えております。健康が支えられますように。持病の膠原病も悪化しませんように
- ◆再赴任が迫っています。今後の行く末も含めて、良き導きを与えられますように
- ◆台湾(平瀬)
- ◆歳を重ねて礼拝に出席している方々、また病のために礼拝に出席できない方々のためお祈りください。私たち宣教師家族の健康と生活のみ守りのため。子どもたちの学びと将来のため
- ◆緊迫した、複雑な国際情勢・社会情勢の中、台湾の政治や経済、治安が安定するように
- ◆香港(鹿島)
- ◆教会は開拓から数えて8年目の歩みに入っています。今、集う信徒方が、一人ひとりみことばによって整えられ、霊的成長が与えられますように
- ◆新来会者が増えられますように
- ◆牧師夫妻の健康が守られますように
- ◆香港と広州を往復する生活が続いています。支えられますように
- ◆香港と近隣地域での那人伝道の働きが広がりますように
- ◆東京国際教会(眞田康毅・由理)
- ◆8年間の東京国際基督教教会における華人宣教が守られた感謝
- ◆巡回報告の時は続きます。祝されますように
- ◆今後の導きのため

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

祈られる

院長 ● 河村 従彦

「祈ってください。…正しい良心を持って、…正しく行動し」

(ヘブル二三・18)

神学院の様子について聞かれることがあります。入学する方が与えられるように、具体的な数字まであげて祈っていただくさる方であつたりします。そこまで真剣に祈っていただくさつたのかと、驚きを感じることもありましたが、感動しつつ、自らの認識不足を悔い改めました。このような者に奉仕が許されているのは、自分が知らないところで、存じ上げない方が祈っていてくださる、祈られる恵みがあるからだと思えます。

「祈られる」。ありがたいことです。しかし、とても重く思えます。何の義理があつて祈ってくださいのか。もちろんだれかのためではなく主のためです。祈るためにどれだけエネルギーを使つてくださっているか。実際に祈ることは簡単ではないでしょう。

信徒は牧師に何を期待するのだろうか。そんなことを考えながら生きて来ました。本当にはわかかっていないと思います。しかし、信徒の意識と自分の意識のギャップが、若い頃の失敗の原因だったことは今になるとわかります。その期待は、有能に仕事ができ

るとか、いわゆる用いられているとか、奉仕の結果として数字が出たとかいうことは少し違う、大切な何かを見ておられるのだろうと思います。ハッキリはわからないのですが、「正しい良心と、正しい行動」ということなのかもしれません。イエスさまのありようをもがきながらも生きようとしている、主にあつて筋が通っている、ブレない、固定化した受け売りの信仰ではなく内面が動いている、難しい中でも次の展開に希望をもっている、そんな愚直さとも言える何かかもしれないと思えます。

この牧師のためであれば祈りたいと信徒の方々に思つていただけのような自分でありたいと思えます。学舎を巣立って行かれる方々が、「祈られる」お一人おひとりであるように祈ります。



1月22日夜半からの大雪で

神学エッセー

宗教改革 雑感 ①

時が満ちる、そんなときに



矢木良雄

ス・スコトゥスが有名です。現代でも通用するほど論理的で完璧に論じられています。しかし普遍的な真理を求め余り、中世後期の複雑な社会情勢に対応できなくなりました。もっと現実を直視しようとする、帰納的な手法を用いた唯名論が興ってきます。オッカムのウィリアムなどが主導した「新しい道(ヴィア・モデルナ)」です。ところが、ここにも問題があつて、人間のわざを強調するペラギウス主義だと批判されます。批判者はリミニのグレゴリウスで、アウグスティヌスの教えた恵みの必要性や人間の墮落と罪深さ、義認における神の主導性を強調し、アウグスティヌスに帰るべきだと「新アウグスティヌス学派」を興します。ルターが入った修道院はこの流れにありました。修道院の裏門を眺めながら、もしルターがここから入らなかつたら、信仰義認の再発見も、十字架の神学もなかつたと、時代を導く神さまを感じました。



ルターがくぐったアウグスティヌス修道院の裏門

◆学年の締め括りに

原点にかえる時

正規コース 大谷のぞみ

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」(使徒の働き一・8)

いつも、尊いお祈りとサポートをいただいておりますことを感謝申し上げます。

昨年(2017年)の12月28日から30日まで、第5回年末BTCリトリートが開かれました。年末リトリートを通して神学院へと導かれた私にとって、毎回のリトリートは、「なぜ神学生として歩んでいるのか」という原点にかえる時です。

今回のリトリートでは、2日目の早天と夜の聖会を通して、ちょうど私が今葛藤を覚えて闘っているところに光が当てられました。聖会のメッセージで、痛み、苦しみの中にいる方のごとくに寄り添い、耳を傾けるそれが伝道である。相手から福音を求める、聴いてくるときが必ず来ると語られました。夏ごろから、「召命の実」ということが語られていて、関わっている人たちにどのように届くことができるのか、語るチャンスを与えてください。と祈っていました。そんな私に神さまは、「まず、今関わらせていただいている方々の現状をよく知り、耳を傾けることから始めなさい。それが、今、あなたに必ずすべきことだ。」と語ってくださいました。

また、メッセージをすることが本当に重荷になっている私に対して、早天の時に、「聖霊の働きがどうしても必要なものであり、聖霊があなたの方の上に臨まれるとき、力を受けるとの約束を信じて祈りなさい」と語ってくださいました。聖霊の働きによってなお整えて頂きたいと願っております。

◆信徒土曜講座に参加して

目から鱗が落ちる時

松戸教会 水野千恵子

長年聖書を読んでも、今一つスッキリ納得しきれないもやもやの様なものを感じてきました。が、信徒講座を受講して聖書の読み方、その背景にある文化歴史の重要性、聖書は伝記ではなく、神様が登場人物を通してご自分の計画を実行された記録であり、登場する人物は多くの問題を持ちながらそれぞれ生かされ用いられてきたこと、さらにイエス様が誰にどのように

語られ、聞いている人々が、どのように思ったのかを、丁寧に解説してください、これまでは見えていなかった情景が私にも少しみえてきました。

見えてくると「たとえ」の中に当時の人々と同じように疑問や反発を感じイエス様がなぜそのような「たとえ」をされたのか、時代背景を知らなければ、これまでのもやもやのままでした。まさに「目からうろこが落ちる」驚きであり嬉しくなりました。

聖書を正しく理解するのは、本当に大変ですが、疑問をそのままにすることは恵みから離れてしまうのではと改めて思いました。

内におられる神様は、様々な角度から私たちをサポートして下さいます。私も老年になってこれ程聖書をしっかりと知りたいたいと思う様になるとは、思ってもいませんでした。



日本福音連盟 (JEF) 神学校合同リトリート

したが、神様が与えてくださった恵みに、多くの目をもって聖書を読むたいと反省と共に深く感謝しています。

毎回資料を準備してくださる河村先生の御芳に御礼申し上げますと共に次回はいかなる「うろこ」が落ちるのか楽しみにしています。

拡大メンテナンス委員会

将来を見据えた「メンテナンス」



中目黒教会 阿部忠夫

信徒も参加した「拡大メンテナンス委員会」が座長田中進先生の下に昨年から続いています。

私は河村先生にさとされ、お役に立てればと思いついて参加させていただきました。

神学院は教団にとって大切なところであるという認識はみんな持っていると思いますが、信徒が直接かかわるということは少なかったように思います。ですから知らないことが多いわけです。私はこれを機会に隔々まで見学がゆるされました。

昭和43年の献堂当時よりも拡大して敷地面積は12,000㎡、建物延べ面積は3,700㎡

となつていますが、地形、樹木等は建物のレイアウトに美しい景観が残るように工夫されていたと思います。そうした樹木も今や大木となりつつあります。

また、ここは横浜市の都市計画で調整区域に指定されているだけではなく緑地として特に保護するため、教団に協力を申し入れてきた経緯が残っています。建物管理と自然保護を両立すれば大変良いお話ではありますが、相応の経費が掛かることを覚悟しなければなりません。過去に苦勞があつた事情が分かります。それにもかかわらず成長してくる樹木は建物に強い日陰を落とし、枝の茂みは空気よどみを生じ、湿気を生み出す原因ともなっています。それは建物に有害で、外壁の劣化、窓枠の不具合、ひいては内壁や設備関係の劣化にまで及んでいるように感じました。これらを正面から向き合うと費用面から考え込んでしまいます。

さて、委員会はこれらを踏まえて何をテーマにしているかと言え、当面不具合が生じているところから優先順位をつけて対応しています。それ以外は「将来を見据えて」という言葉が口をついて出てきます。要するに費用対効果の説明ができるように祈っているのです。



創立70周年記念改修工事

上段は、2018年に実施予定の第二期改修工事の個所です。下段は、現在使われていない旧女子寮棟です。研修宿泊棟として再生させる方向で可能性を検討しています。



耐震対策として本館の塔部分を取って平屋根に



旧家族寮棟・旧オルガン棟は解体し駐車場に



旧女子寮棟を研修宿泊棟として再生するか検討中



旧女子寮棟内部 今は使われていない和室



旧女子寮棟内部 今は使われていない厨房

同窓生の近況

40期生

加古川教会 ● 柏木あゆみ



BTC卒業後の任地は、岡山・広島・鳥取・深川・青森・徳島・現在の加古川教会です。

2015年夏から1年8か月程、抗がん剤のため休職しておりましたが、同窓の諸先生、全国の聖徒方のお祈りとご支援を頂き、回復が与えられ感謝です。復職と同時に就いた加古川での奉仕が、あと少しで1年になるところです。

2月のある寒い朝、「弱さを誇る」というお言葉が心に留まりました。問題除去を願ったパウロに「わたしの恵みは十分」と、ご自身を顕す応答をなさった主の御旨。そのお応えに心から肯いた彼の信仰。それらを想い、どんな時も現実から目を逸らさず、しかもそれに打ち沈んでしまわずに、主の臨在と御愛の力に覆われて生きる秘訣が、この言葉に示されていることを改めて味わいました。

「主の恵み」の体験を愛する兄弟姉妹と共に重ね、教会を挙げて証ししていきたいと願っております。「……キリストの力が私をおうために、むしろ大いに喜んで……」(IIコリント二・9)

神学院スタッフ…恵みの想起

数えてみてわかった事

宮繕課 徳竹信雄

今、神学院では創立70周年記念に向かって整備がなされています。昨年、緑地保全の象徴のような茂みの森から、一挙に建物の実態がわかるような日本庭園の趣を生かした森に変身しました。1年前に専門業者が入り伐採作業が行われました。今年は旧女子寮の建物の周りの整備がされます。ところで、男子神学生には全く無縁の旧女子寮から本館に通じる裏階段、66段がありました。とても小幅でどうしてこんなに小刻みな段差の階段になっているのか疑問でした。数が66段、666の人間を現す数字、最後の66を取って(黙示録一三・18)その歩幅はできているのだと思いついていました。数え直したら20+20+20の60段であることがわかりました。きつとどこかで聞き間違いをしていたようです。

- 卒業式では、卒業生3名と聴講終了者1名を送り出しました。
- 春の入学審査に合格した方は、4月からの学びに備えています。
- 創立70周年記念改修工事は第二期工事に入ります。本館耐震対策の一環として、塔部分の切り取りと平屋根葺き替え、旧オルガン棟・旧家族寮棟の不使用建屋解体、駐車場整地が含まれます。
- 拡大メンテナンス委員会では、旧女子寮棟の有効活用について教団運営委員会に提案し、研修宿泊棟として再生させる方向で具体的に検討して行くことが承認されました。本誌掲載の信徒委員からの寄稿、あわせて写真による説明をご覧ください。
- 後援会では世話人の更新の時期を迎えました。新たに加わってくださる教会もあり感謝致します。お問い合わせは中山会長まで。
- 神学院祈り会は13日(火)です。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。1月の会計報告をさせていただきます。

1月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥1,034,825
教会団体による「神学院献金」
¥704,920
合計 ¥1,739,745
その他の献金(一時・特別)
¥688,000

・振替：00230-0-10138

学苑だより



公報

本部通達

午後2時、青年大会
会場地図・プログラム等、詳細は案内チラシをご覧ください。

■第73次年会

5日(月) 午前11時〜6日(火) 正午
会場 お茶の水OCCビル
8階チャペル及び会議室
全牧師は、5日(月) 午前11時までに、年會会場(お茶の水クリスチャンセンター8Fホール)にお集まりください。

「私たちすべてのために、ご自分の御子をさへ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう。」(ローマ八章32節)
今月上旬に、大切な第21次教団総会・全国大会・第73次教団年會が開催されます。祝福を祈りつつ、万般に主の豊かなご臨在と導きがありますように、またそれぞれの会合の目的が正しく果たされますように、全教会においてお祈りください。

また、今月の最終週が本年の受難週となります。主の十字架を思い、感謝と信頼を新たに新年度に進ませていただきますように。

■本部
(会議)
3日(土) 総会前
教団責任役員会(決算書承認)

■第21次教団総会
3日(土) 午後1時〜8時半
会場 お茶の水OCCビル
8階チャペル及び会議室
一切の上に、主の御心がなされますようにお祈りください。

■全国大会
4日(日)
会場 市川市文化会館
1階大ホール
午前10時30分〜 合同礼拝

午後2時、青年大会
会場地図・プログラム等、詳細は案内チラシをご覧ください。

午後4か月以内(本教団の場合、通常4月末まで)に、宗教法人の事務所へ備え付けの書類の写しを、各都道府県所轄庁に提出するようにお願いします。この場合、事務所に備え付けの書類とは、役員名簿、財産目録、収支計算書・貸借対照表(作成している場合)、境内建物(財産目録に記載されているものを除く)に関する書類、事業に関する書類(行っている場合)となります。提出の際、同じ写しを本部総務局宛にもご提出ください。よろしくお願ひします。

▽今年度の転任の移動期間は4月2日(月)から4月14日(土)となります。
《JHA関係》
12日(月) JHA全国評議員会
12日(月) JHA全国評議員会

■財務委員会
第73次年会のための総予算は一、二四五万円で、その内八五〇万円が教会分担当として計上されました。ご協力をよろしくお願ひいたします。

■総務局
▽例年、年會時に教団主要行事予定表の確定版を配布していましたが、本年は直前の教団総会において局や委員会の人事異動が生ずるため、3月末まで会議日程等の調整期間と致します。各局・委員会で会議日程を変更・追加する場合は、3月末までに本部総務局までご連絡ください。4月頭に本年度予定表の確定版を送付します。

▽単位法人格を持つ教会は、毎年度の法的義務として、毎会計年度終了後4か月以内(本教団の場合、通常4月末まで)に、宗教法人の事務所へ備え付けの書類の写しを、各都道府県所轄庁に提出するようにお願いします。この場合、事務所に備え付けの書類とは、役員名簿、財産目録、収支計算書・貸借対照表(作成している場合)、境内建物(財産目録に記載されているものを除く)に関する書類、事業に関する書類(行っている場合)となります。提出の際、同じ写しを本部総務局宛にもご提出ください。よろしくお願ひします。

■世界宣教局
▽ケニアのテヌウエク病院(葛田就子宣教師)の一部の建物で、2月9日(金)火災がありました。幸いにも犠牲者はありませんでしたが、一日も早く焼失した建物の再建、また病院機能の完全回復のために祈りください。

▽昨年引退された三森邦夫・加寿子宣教師は、ボリビア、日ボ福音教会の招きのもと、お元気で現地の教会で建て上げの活動を継続されています。教会から送り出されて神学大学で学ぶ兄弟たちのために祈りましょう。ボリビアに信仰の自由、宣教の自由が与えられ続けるように祈りましょう。

《IWF関連》
▽アンドレア・スワウトアウト宣教師は、3月に再赴任の予定です。格別、先生のご健康と今期の働きのために、祝福を祈りましょう。

■教育局
《とにキャン関係》
▽「とにキャン・フェスティバル 日程・3月30日(金) 午後1時 会場・中目黒教会 参加費・500円 詳しくは案内・参加申込書をご覧ください。」

▽第11回全国中高生「とにキャン」日程・8月14日(火)〜17日(金) 会場・聖山高原キャンプ場 講師・川口竜太郎師(Hi-ra) テーマ・「The Goal」これが僕らの歩む道

■聖宣神学院
▽第65期卒業式は3月2日(金) 午後1時30分からです。
▽後援会からのお願ひ
「世話人」の更新時期になりました。引き続きご協力をお願い致します。また、推薦がまだの教会は今年からお加わりください。ご不明の点は中山朝雄会長、世話人担当の馬場満子姉(中目黒)、大場茂兄(船橋)、柳井康伸兄(立川)までお知らせください。

▽神学院祈り会 3月13日(火) 午後6時から本部会議室で。
▽在校生の教会実習は4月1日(日)までです。新年度の教会実習は4月第2週から始まります。
▽入学式は4月6日(金) 午前10時30分に開式です。

■祈りのネットワーク2018
編集作業の推進のため、できるだけ早く写真、祈祷課題をご提出ください(郵送の場合は久留米教会・吉村和記師へ、メールの場合は inori@immanuel.or.jp まで)。

出版事業部
▽『聖書新改訳2017』の出版予定は以下のとおりです。
4月 中型革装
4月 大型(引照なし)
5月 大型(引照付) 再刷
6月 中型3刷
9月 新約・伝道版
10月 バイブルミニ
10月 新約・英和対照
12月 コンサイス注解付

▽出版事業部の信徒スタッフは午後4時で帰宅いたします。注文・問い合わせなどは早めにお願ひいたします。また午後3時を過ぎた場合、発送が翌週扱いとなる場合があります。聖書などは在庫がない場合は取り寄せとなります。ご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

山形教会(釣俊栄師)では3月21日に献堂式が執り行われます。司式は国内教会局長内山勝師。主の祝福をお祈りいたしましょう。なお、山形教会のファックス番号は電話と共有となりました。ファックス等に登録しておられる方、変更をよろしくお願ひいたします。

田中敬康師(引退牧師)住所 〒981-0901
仙台市青葉区北根黒松8-12
昭和マンション黒松107
教報PDFパスワード#6123

消息報告



発行人 藤本 満 編集者 北田直人
印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇C.C.ビル イムマヌエル綜合伝道団本部
発行所 東京都千代田区神田駿河台一

新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込)
郵便振替 001107133609